



あなたにできること、きっとある。 もっと知りたい、里親のこと

子どもを迎え入れるまでの4ステップ

Step 1

相談

児童相談所や
里親支援センター等の
支援機関に相談すると、
里親の条件や手続きなどが
説明されます。

Step 2

研修・家庭訪問

児童養護施設や
乳児院などでの実習を含む
数日間の研修と、
家庭環境の調査を受けます。

Step 3

登録

都道府県等の
審査を経て、
里親として登録されます。

Step 4

交流

面会や数時間の外出、
宿泊などで、
子どもと一緒に
過ごします。

子どもを家庭に迎え入れます

養育に必要な費用が支給されます

子どもを育てるために必要な生活費、教育費、医療費などが支給されるので、安心して養育できます。

里親手当
1人あたり

9万円/月+

※養育里親の場合。

生活費

乳児 約6万6千円/月 乳児以外 約5万7千円/月

※その他、教育費や医療費、防災対策費なども支給されます。

里親 Q & A

Q 特別な資格が必要なの？

A 特別な資格は必要ありません。所定の研修を受け、子どもの養育が可能な住環境があるなどの要件等が求められます。保護を必要とすることにも寄り添い、豊かな愛情と正しい理解をもって接することが大切です。

Q 共働きでも大丈夫？

A 基本的に問題ありません。共働きの里親がたくさん活動されています。子どもを養育するために、仕事の調整や対応が必要なこともあります。

Q 実子がいても里親になれる？

A なれます。実子や家族に里親になることを伝え、理解を得たうえで、新しい家族として迎え入れるのが理想です。実子の年齢や性別を考慮して、子どもの委託が決定されます。

里親制度について知りたい
ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
<https://satooyanowa.jp/>



里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所
【相談専用ダイヤル】0120-189783



子ども家庭庁
里親制度



全国
里親会



日本
ファミリーホーム
協議会



児童相談所
一覧



あなたを必要としている子どもがいます

「いつか」を「いま」に。 いま、里親に！



© NIPPON ANIMATION CO., LTD. "Anne of Green Gables" TM AGGLO

あたたかな家庭を心から願ったアンは、
マッシュとマリラに出会い、二人の愛情に包まれながら、自分らしく豊かで幸せな人生を歩みます。

いま、日本には親と離れて暮らす子どもたちが、約4万2千人います。
「里親制度」は、そうした子どもを自分の家庭に迎え入れ、
必要な生活費や養育に関する相談など、さまざまなサポートを受けながらチームで育てる制度です。
子どもの成長には、となりで応援してくれる大人が必要です。
子どもたちの力になれるのは、あなたです。

里親制度について知りたい

里親制度について知りたい方は二次元コードでウェブサイトへ
～里親制度の疑問に答えています～

ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
<https://satooyanowa.jp/>



里親についてもっと詳しく知りたい人は

里親になりたい

お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所

【相談専用ダイヤル】0120-189783

【インターネット】 全国児童相談所一覧 検索

里親についてもっと詳しく知りたい人は

子どもまんが
子ども家庭庁

10月は里親月間です



里親 Story

ストーリー



日本には、さまざまな理由により親と暮らすことができない子どもたちが約4万2千人います。子どもたちの心のケアと健やかな成長には、家庭に迎え入れられ、自分が愛されていると実感できることが大切です。子どもが置かれた状況の一つとして同じケースはないからこそ、里親にまつわる物語も十人十色です。

Case 1

「うちの仲間にならない？」 寂しかった心に、里親の言葉が響いた 小賀坂小春さん

生後もないころから過ごしていた乳児院で、齋藤直巨(なおみ)さん(※以下、なおさん)、竜(りゅう)さん夫婦と出会いました。「もし仲間になってもいいなと思ったら教えてね!」、3歳の小春さんは「わたし、仲間になる!」と決めました。

2人の姉も受け入れてくれ、うれしい反面、不安も。「こんなに楽しい家族の中に自分がいなくてもいいのかな、本当に愛してくれているのかな」

愛情を試すような言動を繰り返し、小学4年生のときに家出をします。「習い事に行くときに持たせてもらった「もしものとき」用のお金を使い果たし、なおさんに叱られたんです。許してもらえたのですが、「本当に許してもらえたのか?」って。姉とのケンカもあり、家出てしまいました!」

友達の家を訪ねたところを保護され、「あんだ、どこ行ってたの!?」と涙を流して叱るなおさんから、姉たちも心配して探していたと聞き、ものすごく反省しました。家出をきっかけに、自分はこんなに大切にされているんだと思い、家族を試すような言動も減っていったと思います」

数年前に、実親と面会しました。「実家族は仲も良く、どうして自分は一緒にいらなかったんだろうとモヤモヤしましたが、「モヤモヤもネガティブな気持ちも全部小春の大事な気持ちだから、そのままでいいんだよ」となおさんたちは受け入れてくれました。家族って血のつながりではないんですね。自分が安心できる場所に信頼できる仲間がいる、それが家族なんだと思います」



こがさか・こはる／2006年生まれ、東京都在住。生まれてすぐ乳児院に預けられ、3歳から里親家庭で育つ。2021年に実親と対面し、実家で活動する許可を得る。現在、里親家庭で暮らす委託児童や実子を支える一般社団法人「グロウハッピー」が主催する「こども会議」のこども委員、ファシリテーターを務める。

Case 3

里親になりたいあなたへ 家族の理解を得るためにできること 三輪清子さん

現在、夫婦で養育里親として10代の子どもを育てています。児童養護施設に勤めていたころに「こどもが家庭で育つことの大切さ」を実感し、その思いを聞いた実家の両親が先に里親となって、こどもを迎え始めました。

私もずっと里親をやりたい気持ちはありましたが、夫は福祉とは特に関わりがなく、でも、付き合っているところから、彼と一緒にうちの子(※実家で暮らしていた里子)を連れて遊園地に出かけたりしていました。さまざまなこどもたちと会っているうちに、夫は不意に「ライフワークとして里親をやりたい」と思いを漏らします。そこからさらに1年ほど時間をかけて、その決意が変わらないか確認した後、こどもを受け入れる準備を始めました。

家族全員が里親に興味を持っているのでなければ、理解を得るには、やっぱり時間をかけて少しずつ知っていかないと必要だと思います。我が家の場合、(私はずっと里親になりたかったけれど)結婚してから登録するまでにかかった時間は12〜13年ほど。でも、今思えば、結婚してすぐの時期は2人とも大人としての成熟度が足りなかったで、こどもにもっと厳しかったりしたかもしれません。時間をかけて始めたから良かったのかなと、いろいろな場面で思うことがありますね。家族にも少しずつ知ってもらい、里親のイメージを固めていく。もちろん、アプローチの仕方はさまざまですが、このプロセスが土台となって現在につながっています。



みわ・きよこ／明治学院大学社会学部社会福祉学科准教授、社会福祉士。児童養護施設等に勤務したのち、1年間の渡米を経て東京都立大学に入学。2008年に卒業後、首都大学東京大学院へ進学し、博士号(社会福祉学)取得。立正大学社会福祉学部社会福祉学科助教を経て現職。社会福祉士の養成に携わる。一貫して里親に関する研究を行っており、現在は東京都の養育里親として、1人のこどもを委託している。

Case 2

里親家庭の「実子」から「里親」へ 大切なのはひとりひとりに向き合うこと 元藤 透さん

障害者福祉の仕事に従事している両親のもと、5人きょうだいの末っ子として生まれました。両親はいつも困難な状況の方々に支援していて、家族以外のこどもが家に滞在していることが自然な環境で育ちました。とはいえ、思春期のころには「なぜここまで、体を酷使してまで尽くすのだろう」と反発を覚えることもありました。

考えが大きく変わったのは、ある男の子と出会ってからです。一時保護されていたその子は人を寄せ付けず、うつろな目をしていました。母が抱っこしようとしても、逃げるように後ずさりして……。心の傷を感じさせるその姿に「この子には幸せになって欲しい」と強く感じました。

我が家にやってきたその子に、両親は特別なこと

をしたわけではありません。温かいごはんを一緒に食べ、泣いたら抱っこして温かい言葉を、こどもが意見を言うときは、尊重する。みるみるうちに笑顔が増え、甘えるようになったその姿に「こんなに尊いことはないな」と、里親を志すようになりました。

いまは実子から里親の立場になり、こどもたちと暮らしています。心がけているのは、ひとりひとりの何げない表情や言葉丁寧に見て向き合い、いま何を感じているのかを知ろうとすることです。いま、里親になることを考えている人のなかには実子がいる人も、将来実子が生まれる人もいますが、こどもの気持ちを大切にすることというのは、実の子だろうと血のつながらない子だろうと、変わらず大事なことでないかと思います。



もとふじ・とおる／1988年生まれ、ファミリーホーム(※「元福ホーム」)養育者。里親家庭の実子として育つ。2012年に自身も養育里親として登録。児童養護施設職員経験者の自宅等で補助者も雇い、より多くのこどもを養育する

Case 4

短い時間でも、こどもにとっては宝物 佐藤浩市さん・亜矢子さん夫妻が続ける 「フレンドホーム」というつながり方 佐藤浩市さん 亜矢子さん

乳児院や児童養護施設のこどもたちを週末や休み期間に預かる「フレンドホーム(東京都の制度の名称)」を、5年以上続けています。児童養護施設のこどもたちとふれあうボランティアをやっていた亜矢子さんが、自室に引きこもりがちな女の子がいると知ったことがきっかけでした。「家庭で過ごすことで、少しでも元気になるてもらえたら」

女の子は、なかなか普通の声で話そうことができなくても、じっくり向き合い、見守ることにしました。「あいさつもできるようになって。笑顔が見られたときには、喜びを感じましたね」(浩市さん)
料理をしたり、花を生けたり。休日と一緒に過ごした後は、施設へ送り届けます。「お別れするまでの30

分間、車中での時間を彼女がとても大事に感じていてくれるというのが伝わってきて、僕もその空気が好きで、教えてもらったことがいっぱいあったなあと振り返って」(浩市さん)

「週末だけ、お休みのときだけでも、家庭生活を送ることはこどもの未来に変化を起こすと思います。里親制度をぜひ知ってほしいです」(亜矢子さん)

「責任はあるから、背伸びは必要なんです。でも、ずっと背伸びしていたら相手も疲れてしまいますよね。あるとき背伸びをやめてかかとを落としたり、背伸びしていたときと見える景色が同じだったんです。僕がこどもと関わったからなんだと思っています」(浩市さん)



さとう・こういち／1960年、東京都生まれ。19歳で俳優デビュー。日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ、数々の賞を受賞。さとう・あやこ／舞台女優として活動後、1993年に結婚。2014年より児童養護施設のこどもを支えるボランティアを始める。

里親が育てる。
社会が支える。
フォスタリングマークは、
里親制度のためのシンボルマークです。

フォスタリングマークについて

里親制度を広めるとともに、里親家庭を社会で支えるための支援の輪が広がることを願って作られたシンボルマークです。

ウェブサイト
公開中!

ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
<https://satooyanowa.jp/>

